
◇ 宮 嶋 怡 正 ◇

○議長（村松 積） 次に、4番、宮嶋怡正君、質問を許します。登壇願います。

4番、宮嶋怡正君。

○4番（宮嶋 怡正） 4番、宮嶋怡正です。

私は、村営水道のより安定した源水確保に向けての取り組みについて質問をいたします。
現在の村営水道には、村内企業も含めてほぼ全戸が加入しておりまして、一日の使用量、季節によって大幅に変わりますが、日量約1,300㎥から2,200～2,300㎥あまりの水を供給しておりまして、まさに村民の日常の生命線であり、一日たりとも源水の確保をおろそかにはできないのであります。

近年、地球温暖化が世界的規模で進行し、異常気象が毎年のように発生する中、ゲリラ的集中豪雨などにより、各地で大きな災害が発生をしております。村営水道も過去には唯一の水源、恩田井水が下伊那西部地区の集中豪雨により井水が寸断され、源水が完全にストップしたことがありました。その時には、非常時緊急対応を親田大井井水委員長さんが中心となり、村民の生命線の水道源水の確保に向けて最大限のご努力をいただき、間一髪断水することなく村民の生活が守られました。また、村がさらに持続的な発展をし続けていくためには、企業誘致なども含めた人口増対策などを推し進めていかなければなりません。いつ起きてもおかしくない東海沖地震やゲリラ的集中豪雨などで源水が寸断されたり、今の供給量よりも需要が増大することを想定する中、複数の源水確保も見据えながら、より安定した源水確保に向けての取り組みを早急に始めるべきだと考えますが、村長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） 4番議員の質問にお答えいたします。

村営水道の源水確保に向けての取り組みということでございます。

確かに基本的にはよくわかります。昔は水と空気はただであったという時代がずっと続いたわけでございますけれども、今は環境の時代ということで、水も空気も本当に管理、そしてまた汚してはいけないというふうになってまいっております。

ところで、下條村の悲しい現実としては、水が非常に少ないと。後ろに浅い山しかしよ

っていないということで、水が非常に少ないというのが現実でございます。そこで水道計画ということでございますけれども、昭和60年の初めころから、これはなんとしても上水道をきっちり整備しなければいけないということでございます。

それ以前にはご承知のように、親田に村営水道でちゃんな水道で配管、簡水受けるにも20cmか30cmしか掘ってないようなところで、もう毎回修理だ、それからこうだということで、議会の終わりのころ特別会計の親田水道ということで、本当にへきへきしたもんでございましたけれども、こんなものでは駄目だよということで基本的に考えましょうということでやったのが初めてでございますけれども、さりとて水はないということでございます。コンサルも踏まえて、私も当時議長やっておったと思いますけれども、委員会を作ってやりました。

全村を縦井戸を掘ってやろうじゃないかということで決定し、空中探索もし、そして縦井戸を明地原の方を中心に掘り出したわけでございますけれども、あの地域ももちろん水道が充実していないから水がないところへもって行って、あの当時大きな櫓を建ててどんちゃんどんちゃん掘り出したわけでございますけれども、地元は納得してくれたんですけども、これはみんな水とられちゃうじゃないかということで、これも途中で立ち消えになったことがあるわけでございます。

そして今、ご提案ありました宮嶋議員の大井井水でございますけれども、あの井水の委員会にも私も村長と一緒に出向きました。「何とか分けてくれんか」と言ったら「冗談じゃない。水は一滴も」当時は全然今のと状況違って、水田、水なんていうのは絶対的なものであって、縦に振っていただかなかったという経緯もあるわけでございます。

県もほろほろでございました。申し上げておきます。これは時代が変わっておるから仕方ないわけでございます。

そこでどうしたかという浪合村へいきました。浪合の半掘地域へ行きました。浪合は非常に水の多いところでございます、今辞めてしまったわけでございますけれども、伊藤義寛村長が浪合の半掘地域のボスでございました。彼とは昔私ゴルフしたんですけども、ゴルフ仲間でございます、「おえ何とかおまえさんいい話にならんか」と言ったら「任せろ」と「俺に任せろ」ということで、浪合の大根沢という沢、「これがほとんど使っていないからここからくみ上げよ」ということでございますけれども、半掘の里からあ

りがたかったんですけれど、半堀の里から極楽まで持ち上げる、これ2つくらいの高圧ポンプがいてそれ持ち上げる。それから楽から自然流下ということでございますけれども、これもとてもじゃないが電気料を含めて相当経費がかかるということと、それから中電も和知の発電所があれの水系でございまして、これを天竜川の水系にやるということになると、同じ中部電力だけれども、この保証料がいますよというようなお話があって、まず第一にメンテが雪でも降ったらもう寄りつけんじゃないかというメンテの問題。

それから電気料を含めた消耗品の問題、コストの問題。それから中部電力の補償金の問題等があって、これがどうしようもないぞというところまで行って断念した経緯もあるわけでございます。これも言えば簡単でございますけれども、大変な作業でございました。

そこで最後にたどり着いたのが恩田井水でございます。恩田井水については、故串原よしのりさんも一生懸命やっていただきました。そして私の議長やっておる時の上原きゆうさんという、これは伍和出身の議長でございますけれども、この人も一生懸命やっていただいて、それから原ぶへいさんという方も一生懸命やっていただきました。

それでこちら側としては、下嶋昭二さん、あの人もいろんなつてをやって水面下でそれをずっとやっておって、最後にいい話になったわけでございます。

伍和の農協のあの薄暗い2階で調印式した時には「ああ良かったな」と思っておりますが、それからスタートしたということでございまして、決して順風満帆できなかったということ。それからみんながそうして協力し合って、みんなが苦勞してくれたということも我々としては忘れてはいけないと思います。

恩田井水の皆さんでございますけれども、本当に一生懸命やってくれます。一生懸命ってあのことかなというくらい本当に一生懸命やって、保守点検もやっていただきます。

阿智村も一生懸命、下條が大変になっちゃいかんということで、まず1つは管理道路整備いたしました。整備してくれました。私どもも応分の負担はしたわけでございますけれども、橋が架かるとこは橋が架かる、それから下から基礎やっっていかなければならないところはやっっていく。背斜地は背斜地で作ってくれるとか、いろいろの整備をしてくれます。

そして今言うように、当然災害があるわけでございますし、これからも保守しなければ改良はもういいんですけれど、保守しなければならぬ。特にトンネルの中なんていうのは素掘りが多いわけでございます。当時、明治のトンネルでございますので、その素掘り

も含めて何か災害があったときに確かに親田の大井井水からももらいました。ほとんどの断水の際は、あの取入れ口から親田までの間のいろいろの河川からいろいろ対応していただきました。災害でなくて工事をやるというときも止めなければいけないんですけども、それは村を挙げて恩田井水を挙げて対応して今日今できておっていただきます。本当に頭の下がる思いでございます。

これからの計画でございますけれども、この基本線、信頼関係というのは絶対崩してはいけないわけでございます、今の中で今度は恩田井水も約2億円くらいかけて整備する、今。政局安定していませんけれども、基本的にできております。私も長土連の立場として「なんとしてもこれだけはやってくれんと生命にかかわる問題だよ」ということで、その上の筋は県の筋は通っております。2億円というのは相当の金額でございます、やっていただけるということと、災害、今ゲリラ豪雨のお話もありましたけれども、災害というのはいつどこでどんな形が出るかわからないわけでございますので、大井の問題も大変お世話になっておることは確かでございます。

それと今、今年浄水器も入れました。これも必要とあらばまだ入れて、今の下條の流水の中から浄水をするということ。それから広域の中でも飯田市を含めて応援体制。例えば給水車何台。それから飯田の水道の水をいっぱい入れて持ってこいとか、こういう形で今連携をとっております。

刈谷市におきましても、どうしてもという場合は給水車も使ってくださいよというような正規な契約はしてないんですけども、友好関係の中できっちりやっております。

それと今の流体系、水が少ない中で各地に井水があります。この井水をもう一度点検し、そしてこんなところへ通しておっちゃん駄目じゃないかとか、こんなところをこうした方がいいじゃないかということを今年から計画いたしました。

井水というのは、なかなかこの利権関係があつて難しいもんでございますけれども、今年来年あたりが井水関係で金が出るのは私は終わりに近いなと思っております。だからこの機を逸することなく、流体系をもう少し整備して、流入したものはその90%くらいは下流まで届くというような施策をとれば、30%くらいは漏水があるわけでございますので、できるように考えております。

その手始めとして、今度は大井井水も早急に基本から見直すと。漏るからちっとばか石

垣を積むとか入れ替えるということになしに、基本でこの流体系でいいのかというところから見直すようにモデルケースとしてやっていくつもりでございますので、どんなことをしても災害で手がつかなくなるということは、これは皆さんも新潟で行って見て、あれでどうするんだと言われたってあれはあれで仕方ないじゃないかというくらい地殻変動でがばがばがばときたときにさあどうするかといわれたら、これは近隣の応援体制しかないわけでございますので、そんなことで思いを固めておるわけでございますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○議長（村松 積） 4番、宮嶋怡正君、再質問ありましたらお願いします。

4番、宮嶋怡正君。

○4番（宮嶋 怡正） 宮嶋です。

ただいまは、村長より水は命の生命線であり、恩田井水との信頼関係の大切さを答弁していただきました。

また、最後の方で今年は井水の点検に向けて本格的な改修も視野に入れながら流体系の見直しをしていただく中で、源水の確保にも努めていきたいという旨の答弁をいただき大変にありがとうございました。

ぜひとも井水の点検、改修に向けまして積極的なご支援のほどをお願いを申し上げまして、私の要望といたしますのでよろしく願いいたします。